

# ウィークリーニュースレター50号 2021

## <原材料高騰で値下がり目処がたたず>

年末になっても原材料の高騰が止まりません。下記は「日本食糧新聞」からの抜粋です。

「今春の食用油や小麦粉、大豆、砂糖など主原料系の高騰は周辺商材へ急速に波及し、直近でも冷凍食品や醤油、食肉加工品、水産練り製品、豆乳、ウイスキーなどが来年からの値上げをアナウンスした。すでに値上げしていた食用油が来年5度目、マヨネーズが2度目の価格改定を発表するなど、食品業界は空前の値上げラッシュに突入している。前回2019年の食品値上げは国内人件費や物流費の高騰が主要因だったが、今回は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う環境変化の影響が大きい。世界的な経済活動の回復に伴う原料需要急増や輸送コンテナ不足、投機、不作、原油高、円安といった複合要因に加え、米国主導のバイオ燃料の需要増が穀物相場を押し上げる構造変化も影響した。原油相場は11月末の政府の石油備蓄放出やオミクロン株の感染拡大懸念などでいったん落ち着いたものの、「中国など諸外国の消費やバイオ燃料需要は今後も拡大する。コロナ対策で各国が増刷したマネーが投機筋に流れることも考慮すれば、当面は食品原料の下がる要素が見当たらない」（大手卸トップ）と厳しい見方を示す。」

最後の「食品原料の下がる要素が見当たらない」という一文はまさに今を象徴しています。つまりしばらくは上がり続けてしまうということです。今年に入り下記の食品が上がっています。

「冷凍からあげ」「食パン・菓子パン」「ジャム」「ウイスキー」「マヨネーズ」「食用油」「ハム・ソーセージ」「かまぼこ」「海産物」上がる理由は違えど全て上がっています。弊社でも今年はミックス粉、クリームや天ぷらの花、カットダコなどを値上させていただきました。そして年明け後も既にミックス粉とクリームは再度値上の打診が本日ありました。

## <物価の優等生という言葉は辞めて欲しい>

以前ネットの記事で鶏卵業者としては「物価の優等生という言葉はもう辞めて欲しい」というのを読みました。餌や光熱費など年々高騰しているのに価格に転嫁できない歯がゆさがあるそうです。価格を維持するのが美学だと捉えられがちですが当事者にとっては死活問題です。この記事を読んだとき、たい焼・たこ焼・大判焼にも言える気がしてきました。いつからか日本のフードビジネスは価格維持、現状維持、低コスト、コスパが良いが美德とされてきたように思えます。もうこの価値観に限界が来ているようです。デフレの象徴である牛丼チェーン大手3社も値上げに踏み切りました。大手さんの値上はニュースにもなるので値上をするタイミングとしては今かもしれません。

## <原料を他の料理に変えてコストを吸収>

とはいえ、後ろ向きな話ばかりでは気持ちが下がるのでこんなお店を紹介します。たこ焼居酒屋さんはカットダコの値上を他の料理に使うことでコストを吸収しました。だし巻き卵に入れたり、締め taco 飯で提供することにしました。たこ焼1玉に対して1粒の価格は高い。しかし卵と一緒に焼いたり、ご飯と一緒に炊くことで売価を上げて原価率を大幅に下げることができました。今ある原材料で他の料理に転嫁できないかを探すのもコスト吸収の道かもしれません。

今年も1年間のご拝読ありがとうございました。来年も週に1回と月に1回の発行を継続いたします。引き続きお付き合いのほど宜しくお願い致します。本年も大変お世話になりました。



三ツ星キッチンカー養成所  
セミナー

キッチンカー開業セミナー

豊吉公式 Twitter

株式会社豊吉ホームページ